

「追憶・国際ロータリー」

2680 地区 大島秀夫（神戸垂水）

つい最近手許に地区研修セミナー講演集(2012~2013 年度)なるものが届いた。石井良昌 PDG と田中毅 PDG によるもの。「国際奉仕に 2 つの奉仕理念」と題して石井良昌 PDG。1990 年代から始まった財団の歴史の中で 1962 年インドコルカタのラハリー会長の提唱した WCS は 2 つの以上の国のロータリアンが協力して援助を必要とする人々を助ける事を可能にします。(クラブでも地区でも)。日本の社会奉仕の枠を広げて世界を舞台にして実践する活動を解釈 (WCS は人道的プログラムに変更) と変更になっている。

この報告書には私の関係した事例が三つ四つある。まず、ネパールの岩村記念病院。発想から竣工式、その維持、とくにその維持に関して篠山 RC の岡本会員の医師養成、看護師養成、この尽力には頭が下がる。

2 つ目はカンボジアの活動。(A) センソク小学校に図書館建設。(B) 義肢装具の養成 (3 年間の学費)。(C) 小児病院への医療器具寄贈。これらの発想は赤木文生ガバナーの一言から始まる。「大島君、地雷で足をなくした子どもたちはどうしているのかなあ」から始まる。「はい、何とかしましょう」。玉津のリハビリテーションセンターの沢村所長を、赤木ガバナーと共に訪れカンボジアの障害者の現状を知り、当地の学校を紹介され、石井良昌、中尾信彦、東昭二、大島秀夫の 4 名が初めてプノンペンを訪れ、まず大使館に挨拶。情報を集め帰国。すぐ 3 日後に沢村先生の講演会を聞き、義肢装具士の学生の育成を第一にし、識字率の向上のために小学校に図書館寄贈を計画。この竣工式には父兄・子どもたち全部で 2500 名参加とは驚いた。ついでに水谷重康氏の宝塚武庫川の RC から支援する子ども病院に医療器具を寄贈した。このカンボジアプロジェクトの成功例はネパールとはまた違った感動であった。「ああロータリアンで良かった」

フィリピンでの活動。(A) スープキッチンフードバンク・トレーニングセンター支援。(B) CLE 語学集中研修方式 (Concentrated Language Encounter の略) 3H プロジェクトに挑戦。これは日本初、3H 委員会の立ち上げは第 2680 地区が初めて。10 年以上の長いプロジェクト。この方式はフィリピンの文部省を動かし国正規の事業となる。東南アジアのこれらの事業展開と若者たちにスタディ・ツアーとして提供した事も心に残る。

平成 25 年 6 月 26 日この稿が終わる日。神戸垂水 RC ホームクラブ 1 年間皆出席であった。30 年来の夢が実った。クラブで私のみ。

(職業分類：病院名誉院長・医師)

(注) この追憶という本を 2 冊いただいたのは、大島秀夫先生が 2016 年 7 月 14 日にご逝去されたのち、奥様の富子様からいただきました。

大島先生とは約 20 年来のロータリーの友であります。彼とはネパール、タイ、カンボジア、フィリピンとロータリー活動を共にいたしました。

彼の精力的な行動と医師としての鋭い視点が今でも思い出されます。彼の実践活動を挙げたら枚挙にいとまがありません。

彼の人への思いやりと人のお役に立ちたいという素晴らしい奉仕の理念で、2006 年にわが地区 2680 地区第 1 号で「超我の奉仕賞」を受賞されました。

本当に惜しい人を亡くし残念でなりません。心からご冥福をお祈り致します。

[文責：石井良昌]
(2016 年 8 月 16 日)